

横浜市の両輪となって

横浜市立小学校長会
会長 山手 英樹



小学校教育研究会会員の皆様におかれましては、日頃より真摯に授業力向上に取り組まれていること、また、その成果に関する情報発信にご尽力されておりますことに、小学校長会としまして、心より感謝申し上げます。

今年度は新型コロナウイルス第3波の余波からのスタートとなり、当初は通常の学校生活が送れるかと期待しました。しかし、変異株（デルタ株）による第4波で学校運営は大きな影響を受けました。また、GIGA スクール構想による一人1台端末の配付に向けて、学校は初期設定、充電保管庫の整備等のハード面はもちろん、セキュリティー管理などのソフト面にも取り組んできました。第5波による8月末の臨時休校、9月からの分散登校となり、端末を持ち帰りそれを活用した学習を実現させていただきました。この時期の端末使用が以後の学習面での ICT 活用に生きています。緊急事態宣言が解除され10月より通常登校となり、学校運営は守りから攻めへとシフトチェンジしました。オミクロン株による第6波は学校にとって最も大きな波であったといえます。学校現場では学級閉鎖や臨時休校が相次ぎ対応に追われました。

横浜市立小学校長会（小学校長会）は、「しなやかさ・はやさ・つながりを大切に」をスローガンに、学校のバックアップに全力で取り組んでまいりました。新型コロナウイルスに対応している中で発せられる学校現場の声を市教委事務局に届け、学校の機能がよりよい状態で維持できるように努めてきました。

こういった状況下で、小学校教育研究会におかれましては、「社会に開かれた教育課程の創造・実践～主体的・対話的で深い学びを実現する授業をめざして～」を研究主題に掲げ研究を進められました。また「学びをとめるな!」をスローガンに市研や区研、そしてそれぞれの一斉授業研を ICT 等を活用して持続可能にさせていただきました。その手立ての一つとして「GIGA スクールプロジェクト総合サイト」を充実させ、GIGA スクール構想の実現に向けて情報を提供いただきました。

昨年1月の中教審答申では「令和の日本型学校教育」が打ち出され、「個別最適な学び」と「協働的な学び」といったキーワードが出されています。学習者を主語とした概念であり、GIGA スクール構想と共により一層研究を深めていきたいです。

横浜市立小学校長会も、一人ひとりの教員が質の高い学びに向かう授業改善を行ってけるように、これからも小学校教育研究会とともに横浜市の両輪となって、教育環境の整備やそれぞれの学校の研究の充実や実践に向けた取り組みに力をつくす所存であることを申し上げます、私の挨拶とさせていただきます。